

平成31年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査

本県の結果と今後の対策

【中学校】

令和元年 11月27日

青森県教育庁学校教育課

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査
本県の結果と今後の対策【中学校】

目 次

I 全体概要	1
1 調査の概要	1
2 教科ごとの状況	1
3 質問紙調査結果から見える要因	1
II 国語	3
1 教科全体の結果	3
2 領域別の正答率	3
3 問題別集計結果	4
4 問題別集計結果の状況	5
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況	6
6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況	7
7 指導改善のポイント	8
＜平成30年度県学習状況調査を踏まえて（国語）＞	10
II 数学	11
1 教科全体の結果	11
2 領域別の正答率	11
3 問題別集計結果	12
4 問題別集計結果の状況	13
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況	14
6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況	15
7 指導改善のポイント	15
＜平成30年度県学習状況調査を踏まえて（数学）＞	17
III 英語	19
1 教科全体の結果	19
2 領域別の正答率	19
3 問題別集計結果	20
4 問題別集計結果の状況	21
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況	23
6 学校質問紙調査の結果から見える英語の指導状況	24
7 指導改善のポイント	25
＜平成30年度県学習状況調査を踏まえて（英語）＞	27
IV 質問紙調査	28
1 生徒質問紙調査の結果と今後の対策	28
2 学校質問紙調査の結果と今後の対策	34

* 本報告書の活用に当たって *

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものである。

また、本報告書の活用に当たっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問紙調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立てていただきたい。

なお、本調査の結果の概要や正答数の分布、すべての小問の正答率等については、文部科学省から配布された『平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査【小学校】又は【中学校】調査結果』（CD-ROM版）を参照していただきたい。

さらに、国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の報告書や調査結果を踏まえた「授業アイデア例」がアップされているので、併せて活用していただきたい。

* 本報告書の用語や記号等について *

本報告書中の用語や記号等については、次のような意味で使用している。

「全国平均との差」

：「今年度の本県の平均正答率－今年度の全国の平均正答率」の式で求めた値。本県が全国を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示している。

「前年度との差」

：「今年度の本県の平均正答率－平成30年度の本県の平均正答率」の式で求めた値。今年度が平成30年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示している。

「過年度との差比」

：隔年で質問されている項目へ対応するため、「今年度の本県の平均正答率－平成29年度の本県の平均正答率」の式で求めた値。今年度が平成29年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示している。

※本県の平均正答率は「%」で、過年度との差については「ポイント」で表している。

「□」：概況を示す。

「▼」：課題を示す。

「◆」：今後の方向性や対策・指導等を示す。

「★」：肯定的な回答と教科の相関があることを示す。

「数字」：本県の正答率が、対比している値に対して5ポイント以上下回っていることを示す。

I 全体概要

1 調査の概要

(1) 調査日時

平成31年4月18日(木)

(2) 調査内容(教科、質問紙調査)

① 教科

小学校 国語(45分) 算数(45分)
中学校 国語(50分) 数学(50分)
英語【聞くこと・読むこと・書くこと】(45分)
英語【話すこと】(15分) ※準備や移動に要する時間を含む

② 質問紙

児童生徒質問紙
学校質問紙

(3) 参加公立学校数

小学校参加校数 本県 283校(全国 19,263校)
中学校参加校数 本県 155校(全国 9,513校)

(4) 参加児童生徒数

小学校児童数 本県 9,401名【国語】(全国 1,028,203名)
9,402名【算数】(全国 1,028,177名)
中学校生徒数 本県 9,759名【国語】(全国 938,797名)
9,760名【数学】(全国 938,887名)
9,760名【英語】(全国 938,888名)

2 教科ごとの状況

本県の公立小・中学校の児童生徒の学力の状況は、全ての教科で、平均正答率が全国平均を上回るか同程度であり、概ね良好な状況にあります。

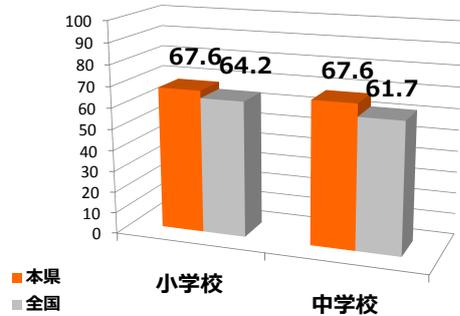
	令和元年度	
	平均正答率(%)	
	青森県(公立)	全国(公立)
小学校国語	70	63.8
小学校算数	67	66.6
中学校国語	73	72.8
中学校数学	61	59.8
中学校英語	55	56.0

3 質問紙調査結果から見える要因

ここでは、本県の調査結果に係る要因の1つとして「各教科に対する興味・関心について」取り上げています。その他の要因については、各教科の頁を御参照ください。

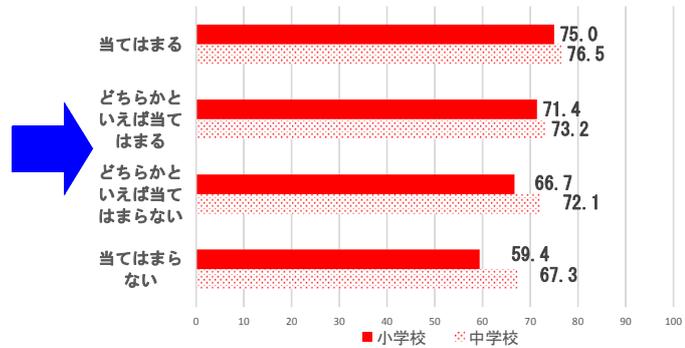
要因につながるデータ

【国語の勉強は好きか】

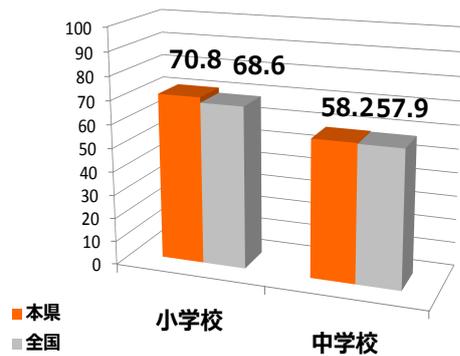


【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合 (%)】

「国語の勉強が好き」への本県の回答別平均正答率(小学校)

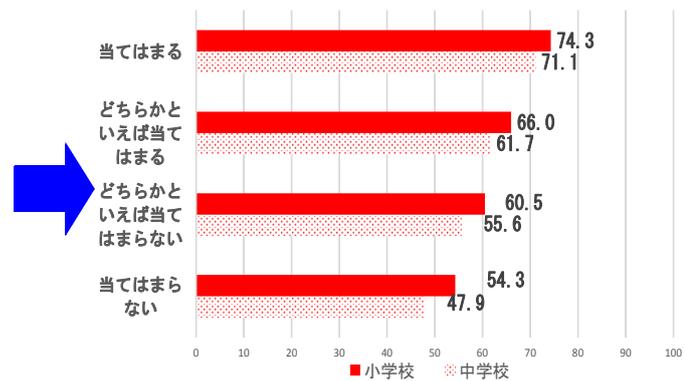


【算数・数学の勉強は好きか】

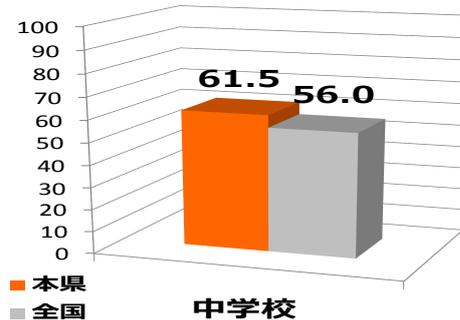


【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合 (%)】

「算数・数学の勉強が好き」への本県の回答別平均正答率(小・中学校)

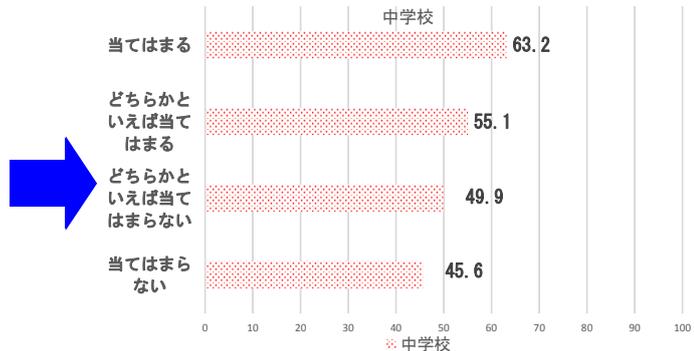


【英語の勉強は好きか】



【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合 (%)】

「英語の勉強が好き」への本県の回答別平均正答率(中学校)



- 本県の児童生徒は、各教科の学習に対する興味・関心が全国平均を上回っている。
- 各教科の学習に対する関心が高い児童生徒は、各教科における平均正答率も高い傾向にある。
- ◆今後も、児童生徒の各教科の学習に対する興味・関心を高める働きかけを工夫することが肝要である。

II 国語

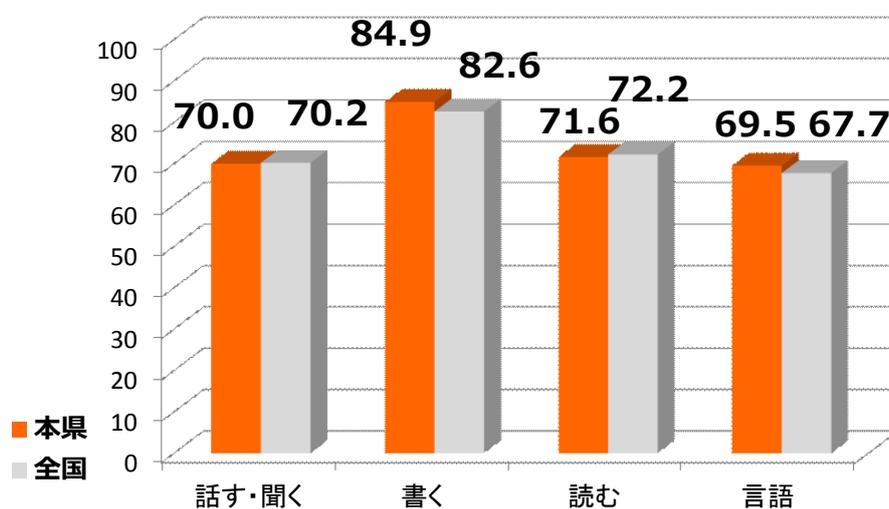
1 教科全体の結果

国語の平均正答率			
青森県	全国平均との差	前年度全国比	
		73	0

□国語全体としては、本県は、全国平均と同程度である。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	70.0	-0.2	
	書くこと	84.9	+2.3	
	読むこと	71.6	-0.6	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.5	+1.8	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	78.0	+1.5	
	話す・聞く能力	70.0	-0.2	
	書く能力	84.9	+2.3	
	読む能力	71.6	-0.6	
	言語についての知識・理解・技能	69.5	+1.8	



□「話すこと・聞くこと」、「読むこと」領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、平均正答率は全国平均と同程度である。また、「書くこと」領域の平均正答率は、全国平均をやや上回っている。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				(参考※) 従来の区分		問題形式			正答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式	短答式	記述式	青森県	全国
1一	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものと適切なものを選択する	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ			2ウ				○	○	○	○				62.4	63.9	-1.5
1二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える			1イ				○	○	○	○				59.5	61.5	-2.0
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	文章に表れているものの方や考え方について、自分の考えをもつ			1オ	○		○			○		○		92.9	91.2	1.7	
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	封筒の書き方を理解して書く			1(2)ア					○	○	○	○		58.6	56.8	1.8	
2一	話合いでの発言の役割について説明したものと適切なものを選択する	話合いの話題や方向を捉える			1オ			○			○	○	○		81.6	80.4	1.2	
2二	話合いでの発言について説明したものと適切なものを選択する	相手に分かりやすく伝える表現について理解する			1ウ			○			○	○	○		68.6	69.7	-1.1	
2三	話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ			1オ		○	○				○		○	59.8	60.4	-0.6	
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する			2エ			○			○	○	○		88.6	87.4	1.2	
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く			1ウ		○	○				○	○	○	81.2	77.8	3.4	
4	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する	語の一部を省いた表現について、話や文章の中で適切な活用の仕方を理解する			1(1)イ(9)					○	○	○	○		80.5	78.7	1.8	

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○話すこと・聞くこと

- ・話合いの話題や方向を捉えることができる。
（【2一】対全国比：+1. 2）

○書くこと

- ・書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができる。
（【3一】対全国比：+1. 2）
- ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができる。
（【3二】対全国比：+3. 4）

○読むこと

- ・文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことができる。
（【1三】対全国比：+1. 7）

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・封筒の書き方を理解して書くことができる。
（【1四】対全国比：+1. 8）
- ・語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択することができる。
（【4】対全国比：+1. 8）

▼課題であること

▼話すこと・聞くこと

- ・「相手に分かりやすく伝わる表現について理解すること」【2二】（対全国比：-1. 1）
- ・「話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと」【2三】（対全国比：-0. 6）

▼読むこと

- ・「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること」【1二】（対全国比：-2. 0）
- ・「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと」
（対全国比：-1. 5）

学習指導に当たって

話すこと・聞くこと

- ・自分の考えを分かりやすく相手に伝えるために、話合いの話題や方向を捉えた上で、話題に対する自分の立場や考えを明確にするとともに、そのような立場や考えであること理由について話せるようにする。その際、話合いの参加者の興味・関心、情報量などを考慮しながら、相手の発言を具体的に言い換えたり、他者同士の発言を結び付けて話したりするように指導する。
- ・話合いをする際に、話題や方向を的確に捉え、自分の考えをもちながら参加するように指導する。その際、必要に応じて話合いの話題について確認したり、話合いの経過を捉えたりすることができるように指導する。

読むこと

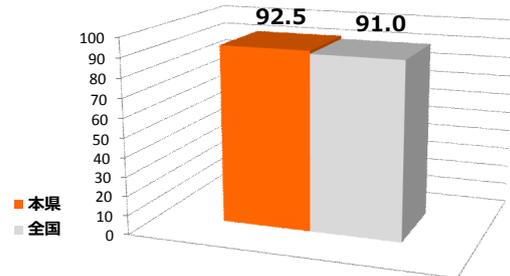
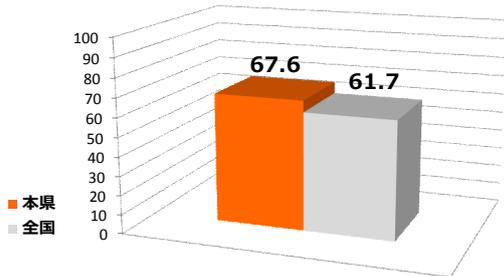
- 文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる際に、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げるように指導する。その際、文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけでなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりするように指導する。
- 説明、解説、論説などの説明的な文章を読む際に、文章の構成や展開を捉え、内容を的確に理解できるように指導する。その際、生徒自身が目的意識をもって文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫する。

5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合（％）】

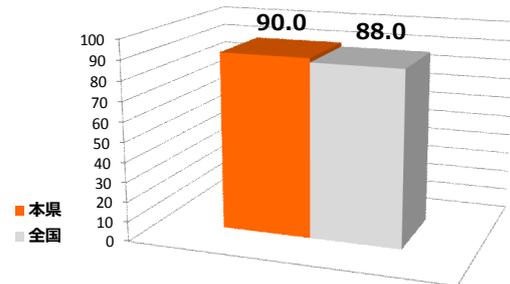
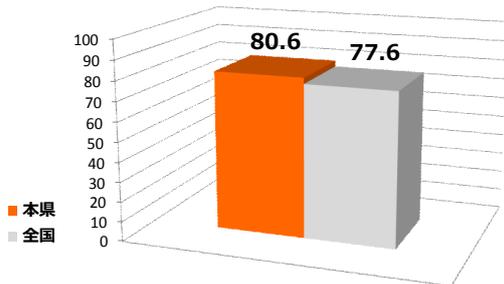
【(40) 国語の勉強が好きか】

【(41) 国語の勉強は大切か】



【(42) 国語の授業内容はよく分かるか】

【(43) 国語の授業で学習したことは、将来役に立つと思うか】

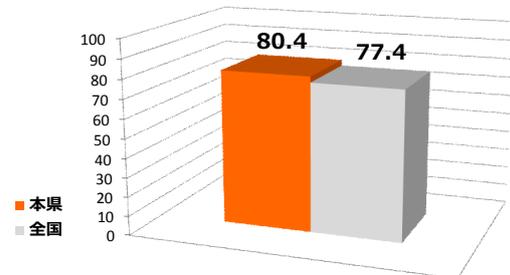
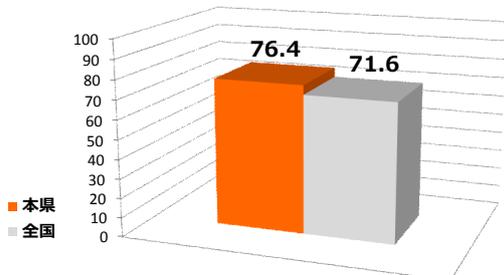


□本県の生徒の国語の学習に対する興味・関心の高さや授業の理解度等は概ね良好な状況にあり、国語の勉強が好きだと思っている生徒は全国平均を上回っている。

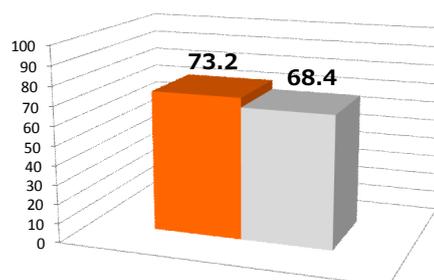
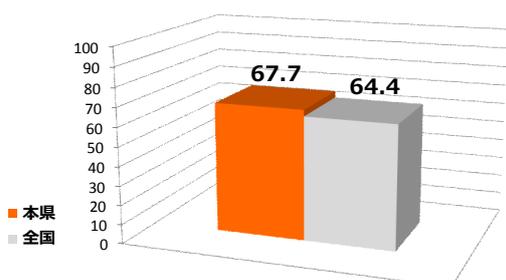
□本県のほとんどの生徒が、国語の授業で学習したことは、将来役に立つと考えている。

【(44) 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用しようとしているか】

【(45) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしているか】

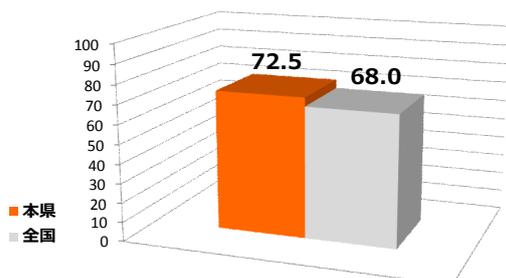


【(46) 国語の授業では、工夫して自分の考えを話したり書いたりしているか】



【(47) 国語の授業では、目的意識をもって文章や資料を読んでいるか】

【(20) 読書は好きか】



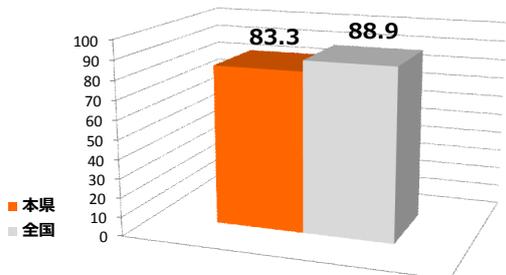
- 本県の生徒は、国語の授業において、目的意識をもったり、工夫したりしながら様々な活動に取り組むとともに、学習したことを普段の生活の中で活用しようとする意識が、全国平均と比較して高い。
- 読書が好きだと回答した本県の生徒の割合は、全国平均と比較して高い。

6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況

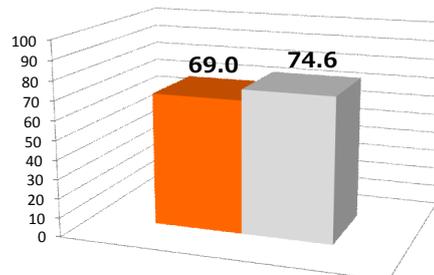
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合 (%)】

- ▼本県の国語担当教員の指導に対する取組の意識は、全国平均と比較して低い傾向にあり、本県の生徒の意識と比較しても低い傾向にある。
- ▼特に、国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付けるための授業や、補充的な学習及び発展的な学習指導について、全国と比較して十分行われていない状況が見られる。

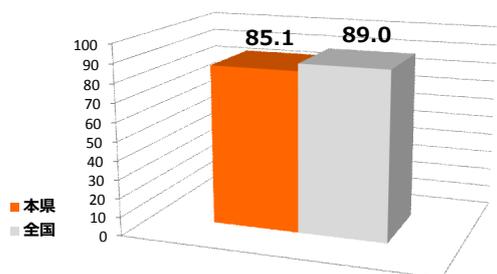
【(40) 国語の指導として、前年度までに補充的な学習指導を行ったか】



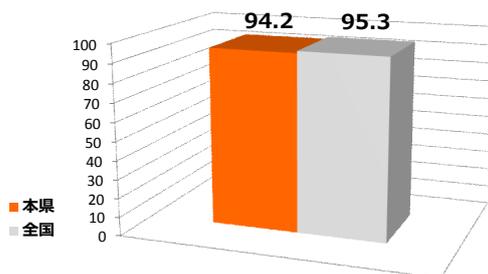
【(41) 国語の指導として、前年度までに発展的な学習指導を行ったか】



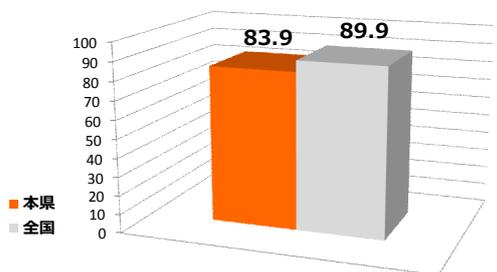
【(42) 国語の指導として、前年度までに 話したり聞いたりする授業を行ったか】



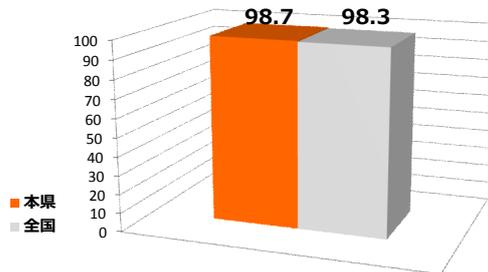
【(43) 国語の指導として、前年度までに 書く習慣を付ける授業を行ったか】



【(44) 国語の指導として、前年度までに様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか】



【(45) 国語の指導として、前年度までに基礎的・基本的事項を定着させる授業を行ったか】



7 指導改善のポイント

(1) 各領域について（平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書より）

話すこと・聞くこと

◆ 目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめる指導の工夫

目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめる力を身に付けるために、話すことに関する指導事項及び聞くことに関する指導事項との密接な関係を図って指導する必要がある。例えば、話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて質疑応答や意見交換をする言語活動や、互いの思いや考えなどを深めたり広げたりしていく対話や討論などの言語活動を通して指導することが効果的である。その際、自分の考えが分かりやすく伝わるように、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すように指導するとともに、他の人の話を聞きながら、必要に応じて質問し、自分の考えとの共通点や相違点を整理するように指導することが大切である。

書くこと

◆ 目的や意図に応じて相手に分かりやすく書く指導の工夫

目的や意図に応じて相手に分かりやすく書く力を身に付けるために、第1学年では根拠を明確にして書くこと、第2学年では相手に効果的に伝わることを意図して、説明や具体例を加えたり描写を工夫したりして書くこと、第3学年では論理の展開を工夫するとともに資料を適切に引用するなどして書くことなどについて指導する必要がある。その際、小学校での学習を踏まえ、自分の考えの根拠として用いる情報が適切であるかどうかについて検討したり、自分の考えとどのようなつながりがあるのかが分かるように記述したりするように指導することが重要である。

読むこと

◆ 文章の構成や展開を理解し、内容を的確に捉える指導の工夫

文章の構成や展開を理解し、内容を的確に捉える力を身に付けるために、文章の特徴を把握するとともに、これまでの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読むように指導する必要がある。その際、生徒自身が目的意識をもって文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫することが重要である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◆ 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く指導の工夫

字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く力を身に付けるために、毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を各学校と生徒の実態に即して適切に設定して指導するとともに、書写の能力を学習や生活に役立てるように指導する必要がある。例えば、学習ノートに記録したり掲示文などを書いたりする場合、手紙などの通信文を書いたりする場合などにおいて、形式や内容に留意して書くように指導することなどが考えられる。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

言語活動を通して資質・能力を育成する授業構想

- ◆ 国語科における深い学びを実現するための授業改善の一つとして、学習指導要領に示されている各領域の言語活動例を参考に、授業を構想することに取り組む。授業を構想する際には、次の3点を明確にすることが重要である。
 - ①当該単元で育成を目指す資質・能力を明確にする（＝どの指導事項を指導するのかを決める）
 - ②①を身に付けるために有効な言語活動を設定する
 - ③①の定着を確認する学習評価とその方法を具体的に設定する（＝②を通した生徒の具体的な状況を想定し、どのように判断するのかを決める）

学校図書館を活用した読書指導の充実

- ◆ 読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。様々な文章を読む習慣を付けるためにも、文学的な文章の学習の際に、教科書で扱われている教材との並行読書により様々な作品に触れさせたり、説明的な文章の学習の際に調べ学習の活動場面を設定し、様々な資料に触れさせたりするなど、学校図書館を活用した授業を通して、読書指導を行うことが大切である。

<平成30年度県学習状況調査を踏まえて（国語）>

平成30年度学習状況調査実施報告書において、本県の中学生は「話すこと・聞くこと」、「読むこと」領域に課題があると分析した。

「話すこと・聞くこと」領域については、キーワードを踏まえて話の要点をつかむ力、話の中心的な部分や付加的な部分、事実と意見に注意して話全体の構成をつかむ力、複数の情報を比べながら聞く力、複数の情報の共通点や相違点を見付け分類する力が不足しているとした。

「読むこと」領域については、作品全体を通して、登場人物の行動や会話文などに着目して読み、情景描写等と関連付けて、心情を捉える力、文章を正確に読み取ること、提示された語句について必要な情報を探し、整理する力が不足しているとした。

今後の指導に当たっては、各領域の内容を関連付けながら指導する中で、話の要点やキーワードが伝わるように話したり書いたりさせることや、要点やキーワードが何かを考えながら話を書かせたり、文章の読み合わせをさせたりすることが大切である。

【平成30年度学習状況調査実施報告書より】

今年度の全国学力・学習状況調査においても、「話すこと・聞くこと」領域及び「読むこと」領域に課題が見られた。

国語科の学習においては、言語に対する知識及び技能を学習するだけでなく、言葉への自覚を高めるための学習及び活動を意図的に行うことが大切である。それが一人一人の生徒の言語生活や言語活動を充実させ、言葉によるものの見方や考え方を働かせることにつながり、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を高めることとなる。

そのためには、〔思考力・判断力・表現力等〕を育成する各領域の中から、生徒の実態に応じて指導事項を選び、指導の目的や意図に応じて複数の領域を関連させ、適切な言語活動を設定した単元構想による学習を積み重ねるとともに、言語環境を整え、言語感覚の育成を図ることが必要である。

さらに、継続的な読書指導や、国語科の学習を核として各教科等横断的な学習となるように工夫することも大切である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・平成30年度学習状況調査実施結果報告書
- ・平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書
- ・平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

Ⅲ 数学

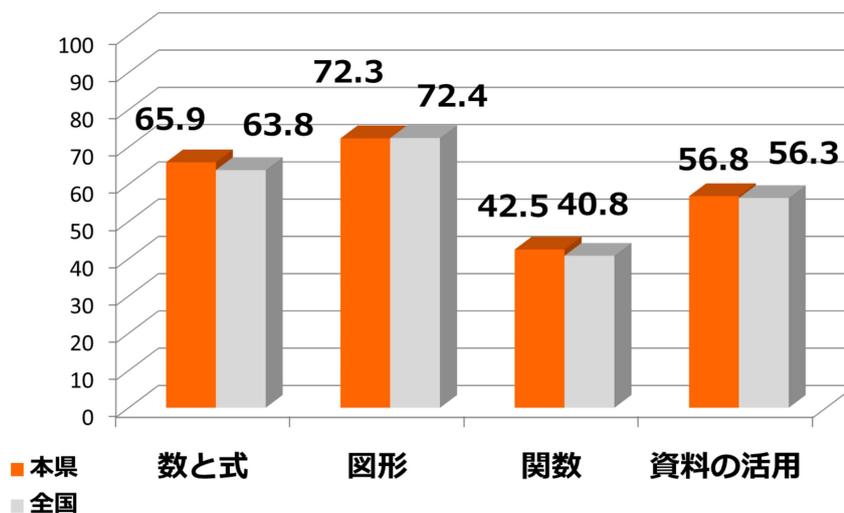
1 教科全体の結果

数学の平均正答率		
青森県	全国平均との差	前年度全国比
61	+1	

□数学全体としては、本県は、全国平均と同程度である。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	数と式	65.9	+2.1	
	図形	72.3	-0.1	
	関数	42.5	+1.7	
	資料の活用	56.8	+0.5	
評価の観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	50.8	-0.2	
	数学的な技能	69.4	+5.5	
	数量・図形などについての知識・理解	71.8	+0.5	



□数と式の項目において、平均正答率は、全国平均をやや上回っている。
 □残りの3項目において、平均正答率は全国平均と同程度である。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				(参考※) 従来の区分			問題形式			正答率		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式	短答式	記述式	青森県	全国	全国との差	
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	数の集合と四則計算の可能性について理解している	1(1) ア						○	○	○	○				65.5	62.2	3.3	
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2) ウ						○	○	○	○				76.6	70.1	6.5	
3	$\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める	平行移動の意味を理解している	1(1) イ						○	○	○	○				83.8	83.6	0.2	
4	反比例の表から式を求める	反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる			1(1) エ				○	○	○	○				55.8	48.9	6.9	
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる			2(1) ア				○	○	○	○				75.7	72.8	2.9	
6(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差が表すものを選ぶ	グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる			2(1) イ、エ				○	○	○	○				39.4	38.8	0.6	
6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			2(1) イ、エ				○	○	○	○				32.2	34.7	-2.5	
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2(2) ア						○	○	○	○				75.2	75.8	-0.6	
7(2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ	反例の意味を理解している	2(2) イ						○	○	○	○				77.2	77.2	0.0	
7(3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(2) ウ						○	○	○	○				53.0	53.3	-0.3	
8(1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる			1(1) ア				○	○	○	○				57.5	57.9	-0.4	
8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、 Histogram の特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1) イ				○	○	○	○				41.8	40.8	1.0	
8(3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ	問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる			1(1) ア、イ				○	○	○	○				52.2	53.6	-1.4	
9(1)	説明をよみ、 $6n + 9$ を $3(2n + 3)$ に変形する理由を完成する	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる	2(1) イ、ウ						○	○	○	○				58.0	57.4	0.6	
9(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) イ、ウ						○	○	○	○				59.9	59.7	0.2	
9(3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n + 4)$ で表されたとき、 $2n + 4$ はどんな数であるかを選ぶ	総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる	2(1) イ、ウ						○	○	○	○				69.5	69.6	-0.1	

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○数と式

- ・数の集合と四則計算の可能性について理解している。
（【1】対全国比：+3.3）
- ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。
（【2】対全国比：+6.5）

○関数

- ・反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる。
（【4】対全国比：+6.9）
- ・簡単な場合について、確率を求めることができる。
（【5】対全国比：+2.9）
- ・グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる。
（【6（1）】対全国比：+0.6）

○資料の活用

- ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
（【8（2）】対全国比：+1.0）
- ・与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる。
（【9（1）】対全国比：+0.6）

▼課題であること

▼図形

- ・「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解すること」【7（1）】
（対全国比：-0.6）
- ・「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、証明すること」【7（3）】
（対全国比：-0.3）

▼関数

- ・「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」【6（2）】
（対全国比：-2.5）

▼資料の活用

- ・「資料を整理したら表から最頻値を読み取ること」【8（1）】
（対全国比：-0.4）
- ・「問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断すること」【8（3）】
（対全国比：-1.4）

学習指導に当たって

数と式

- ・数の集合と関連付けて四則計算の可能性について考察できるようにする。
- ・四則計算の結果の特徴を捉えて、正の数と負の数の必要性和意味を理解できるようにする。
- ・連立二元一次方程式を工夫して解くことができるようにする。
- ・連立二元一次方程式を用いて問題解決することを通して、数学を利用することのよさや意義を実感できるようにする。
- ・文字式を用いた説明を読み、式変形の目的を的確に捉えることができるようにする。
- ・事柄が成り立つ理由を、根拠を明確にして説明できるようにする。

図形

- ・移動前と移動後の図形を比較して2つの図形の関係を読み取ることができるようにする。
- ・日常の事象の特徴を、図形の移動を用いて的確に捉えることができるようにする。
- ・反例の意味を理解できるようにする。
- ・結論が成り立つための前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにする。

関数

- ・反比例の表から変化や対応の特徴を捉え、 x と y の関係を式で表すことができるようにする。
- ・具体的な事象について、 x と y の関係を数学的に表すことができるようにする。
- ・数学的に表現したことを事象に即して解釈することができるようにする。
- ・問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする。

資料の活用

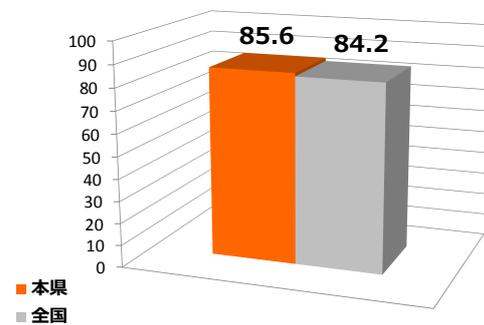
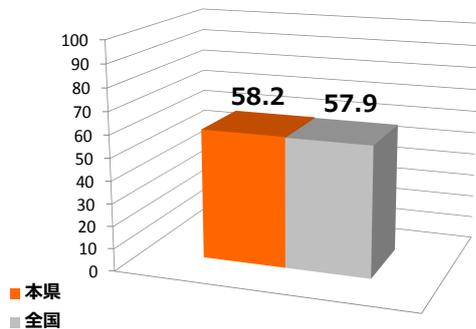
- ・樹形図や二次元の表などを利用して起こり得るすべての場合を数え上げ、確率を求めることができるようにする。
- ・確率を用いて不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え判断することができるようにする。
- ・代表値の必要性和意味を理解し、代表値を求めることができるようにする。
- ・資料の傾向を捉えて、批判的に考察し判断した理由を、数学的な表現を用いて説明できるようにする。
- ・問題解決をするために、どのような代表値を用いるべきかを判断することができるようにする。

5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合（％）】

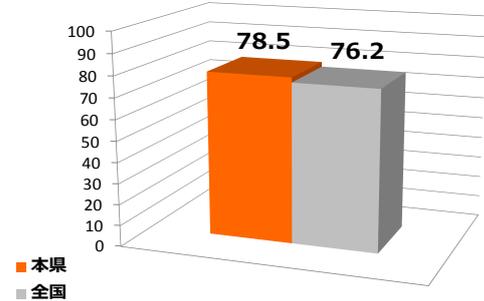
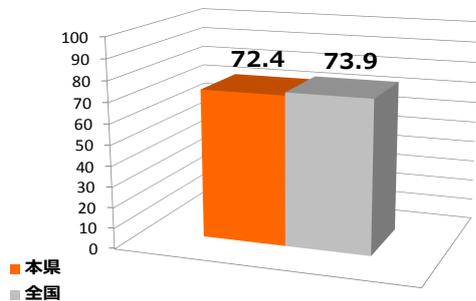
【(49) 数学の勉強が好きか】

【(50) 数学の勉強は大切か】



【(51) 数学の授業はよく分かる】

【(52) 数学の授業で学習したことは、将来役に立つと思う】



□生徒の数学の学習に対する興味・関心や授業の理解度等は概ね良好な状況にあり、数学の授業で学習したことは、将来役立つと思う生徒は全国平均をやや上回っている。

□8割以上の生徒が、数学の勉強は大切であると考えている。

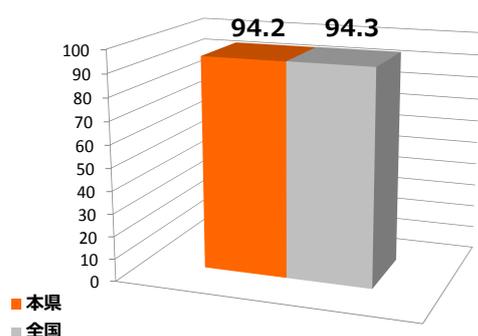
▼小学校算数では「授業はよく分かる」が本県84.8%、全国83.5%で全国平均を上回っているが、中学校数学では全国平均を毎年、下回っている。

6 学校質問紙調査の結果から見える数学の指導状況

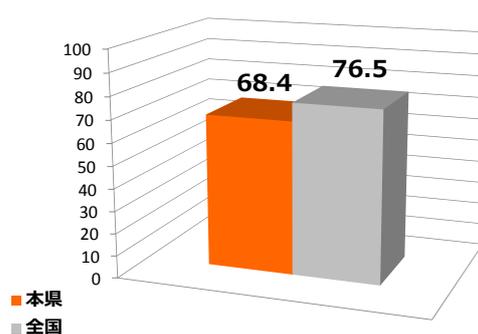
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（％）】

- 数学の指導として、前年度までに補充的な指導を行った割合は全国平均と同程度である。
- 数学の指導として、前年度までに計算問題など反復練習をする授業を行った割合は、全国平均をやや上回っている。
- ▼ 数学の指導として、前年度までに発展的な学習指導を行った割合、実生活における事象との関連を図った授業を行った割合は昨年度よりは増加しているが、全国平均を大きく下回っている。

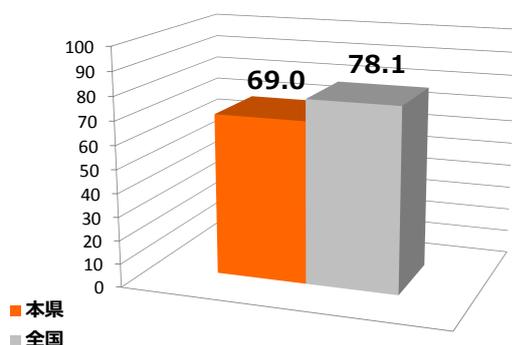
【(46) 補充的な学習指導を行ったか】



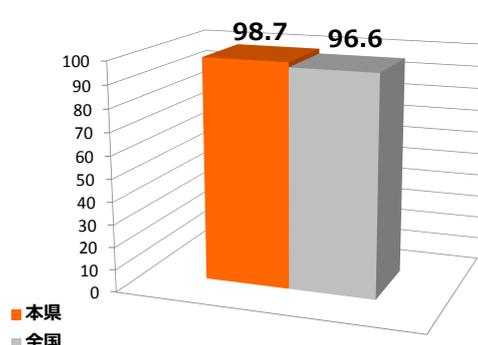
【(47) 発展的な学習指導を行ったか】



【(48) 実生活における事象との関連を図った授業を行ったか】



【(49) 計算問題などの反復練習をする授業を行ったか】



7 指導改善のポイント

(1) 各領域について（平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書より）

数と式

◆ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実

事柄が一般的に成り立つ理由を、筋道を立てて説明できるようにするために、成り立つと予想した事柄について、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、その見通しを基に根拠を明らかにして説明する活動を充実することが大切である。

図形

◆ 成り立つと予想した事柄について、常に成り立つとは限らないことを反例をあげて示す活動の重視

反例の意味の理解を深めることができるようにするために、命題が常に成り立つとは限らないことを示す場面を設定し、成り立たないことを示すためには反例をあげて説明する活動を重視することが大切である。その際、反例となる図形を作図して確かめるなどして、命題の仮定を満たしているが、結論は満たしていない例が反例であることについて理解できるようにすることが大切である。

◆ 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する活動の充実

ある結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、それを数学的に表現する活動を充実することが大切である。その際、成り立つ事柄について、その前提を変えたとき、同じ結論が成り立つかどうかを検討するなどして、同じ結論が成り立つための前提を考えると、統合的・発展的に考える場面を設定することが考えられる。

関数

◆ 事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。その際に、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実することが大切である。

資料の活用

◆ 代表値の必要性や意味を理解するために、データを整理した表などから代表値を求める活動の重視

データの傾向を捉えるための根拠を明らかにするために、目的に応じて収集したデータやそれを整理した表から、代表値を的確に求める活動を重視することが大切である。

◆ データの分布の傾向を読み取り、判断することを通して、統計的に問題解決する活動の充実

日常生活や社会の事象における問題に対して、目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムなどに整理し、そのデータの分布の傾向を読み取り、それに基づいて判断し統計的に問題解決する活動を充実することが大切である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

数と式

◆ 統合的・発展的に考察することができるようにする

数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察することができるようにすることが大切である。

例えば、連続する3つの奇数の和、連続する5つの奇数の和、連続する4つの奇数の和について成り立つ事柄を振り返り、「連続する n 個の奇数の和は、連続する n 個の奇数の中央の数の n 倍である。」として捉え直すなど、統合的に考察することが考えられる。さらに、対象にする数を奇数にとどまらず整数にまで拡張して統合的・発展的に考察することも考えられる。

図形

◆ 証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理するなどして証明を振り返って統合的・発展的に考え、新たに見いだした事柄を説明できるようにする

一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、問題の条件や仮定を見直したり、共通する性質を見いだしたりして、様々な図形においても成り立つ事柄を確認する場面を設定することが考えられる。このような場面で得られた結果を振り返って、統合的・発展的に考え新たに見いだした事柄を説明できるようにすることが大切である。

例えば、正方形で成り立つ事柄を証明し、正方形を他の四角形に変えたとき、どのような四角形であれば結論が同じであるかを予想する場面を設定することが考えられる。その際、正方形以外の四角形 $ABCD$ の例をいくつかあげ、 $AF = CE$ がいつでも成り立つ四角形と成り立たない四角形に分類する活動が考えられる。その上で、 $AF = CE$ が成り立つ場合と成り立たない場合を正方形の証明を振り返りながら比較・検討することで、正方形に限らず $AB = CB$ である四角形 $ABCD$ であれば、 $AF = CE$ となることを見いだす活動が考えられる。

関数

◆ 日常生活における問題の解決に数学を活用できるようにする

具体的な場面において、事象を理想化・単純化して数学の問題として捉え、日常生活における問題を数学を活用して解決できるように指導することが大切である。その際、問題解決の方法について振り返る場面を設定することが考えられる。問題解決の過程を振り返り、立てた方法の見直しと、問題解決に用いた方法について比較・検討し、うまくいったことやうまくいかなかったことを場面と関連付けて整理することが大切である。このように問題解決の方法を振り返ることは、その後に生徒が直面するであろう問題解決に主体的に取り組むためにも大切である。

資料の活用

◆ 目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断することを通して、統計的に問題解決することができるようにする

データの分布に着目して、その傾向を読み取って判断することができるように指導することが大切である。その際、日常生活を題材とした問題などを取り上げ、それを解決するために計画を立て、必要なデータを収集して処理し、データの傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を取り入れ、統計的に問題解決する活動を充実させることが大切である。

<平成30年度県学習状況調査を踏まえて（数学）>

平成30年度学習状況調査実施報告書において、本県の中学生は内容・領域別にみた状況では「数と式」と「図形」の領域に課題があると分析した。

「数と式」については、数学的に表現することと数学的に表現されたものを解釈することを対にして考え、考えたことや工夫したことなどを数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合う時間を単元の中に設定し、数学的に表現することのよさを実感できるようにすることが大切であるとした。

「図形」については、作図の方法を一方向的に与えるのではなく、図形の対称性や図形を決定する要素に着目して作図の方法を見いださせ、その方法を図形の性質や関係に基づいて説明させる活動を通して、理解させることが大切であるとした。

【平成30年度学習状況調査実施報告書より】

平成31年度全国学力・学習状況調査では、「数と式」については、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察できることができるようにすることが大切である。

「図形」については、一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、問題の条件や仮定を見直したり、共通する性質を見いだしたりして、様々な図形においても成り立つ事柄を確認する場面を設定することが考えられる。このような場面で得られた結果を振り返って、統合的・発展的に考え新たに見いだした事柄を説明できるようにすることが大切である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・平成30年度学習状況調査実施結果報告書
- ・平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書
- ・平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

IV 英語

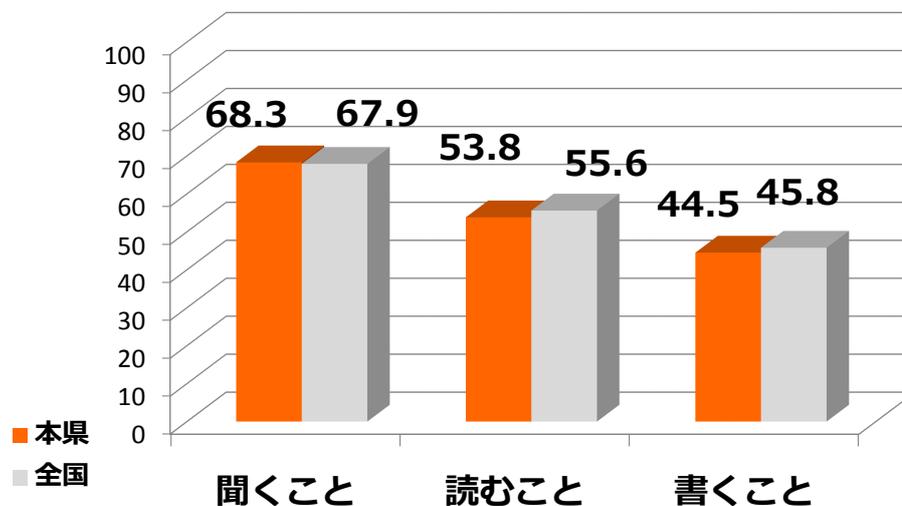
1 教科全体の結果

英語の平均正答率		
青森県	全国平均との差	前年度全国平均との差
55	-1	

□英語全体としては、本県は、全国平均とほぼ同程度である。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率		
		青森県	全国平均との差	前年度全国平均との差
学習指導要領の領域	聞くこと	68.3	+0.4	
	話すこと (参考値)			
	読むこと	53.8	-1.8	
	書くこと	44.5	-1.3	
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	1.6	-0.2	
	外国語理解の能力	42.9	-1.8	
	言語や文化についての知識・理解	64.1	-0.6	



□「聞くこと」、「読むこと」及び「書くこと」について、平均正答率は全国平均と同程度である。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式	正答率						
			聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	「知識」に関する問題		「活用」に関する問題	選択式	短答式	記述式	青森県	全国	全国との差
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	(7)	(4)												91.5	91.1	0.4
1 (2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	(7)	(4)												91.1	88.6	2.5
1 (3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7)	(4)												74.5	72.3	2.2
1 (4)	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7)	(4)												60.2	61.8	-1.6
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	(4)													74.8	71.8	3.0
3	天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる	(4)													80.9	82.0	-1.1
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	(4)													5.2	7.6	-2.4
5 (1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる		(4)												79.7	79.4	0.3
5 (2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる		(4)												75.4	74.4	1.0
5 (3)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる		(4)												71.2	73.1	-1.9
6	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する	まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる		(4)												57.4	62.9	-5.5
7	チャンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する	まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる		(4)												29.9	32.8	-2.9
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる		(4)												9.3	10.9	-1.6
9 (1) ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる		(7)	(4)											78.0	79.9	-1.9
9 (1) ②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる		(7)	(4)											55.2	58.2	-3.0
9 (2) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる		(7)	(4)											75.0	73.6	1.4
9 (2) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる		(7)	(4)											27.2	28.9	-1.7
9 (3) ①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる		(7)	(4)											51.3	53.5	-2.2
9 (3) ②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる		(7)	(4)											33.2	32.9	0.3
9 (3) ③	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる		(7)	(4)											34.6	37.4	-2.8
10	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる		(4)												1.6	1.8	-0.2

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○聞くこと

- ・語と語の連結による音変化を捉えて、情報を正確に聞き取ることができる。
（【1（1）】対全国比+0.4）
- ・教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる。
（【1（2）】対全国比：）+2.5
- ・日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。
（【1（3）】対全国比：+2.2）
- ・まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる。
（【2】対全国比：+3.0）

○読むこと

- ・日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取ることができる。（【5（1）】対全国比：+0.3）
- ・日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる。（【5（2）】対全国比：+1.0）

○書くこと

- ・一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる。
（【9（2）①】対全国比：+1.4）

▼課題であること

▼「聞くこと」

- ・「聞いて把握した内容について、適切に応じること」【4】（対全国比-2.4）

▼「読むこと」

- ・「まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解すること」【7】
（対全国比-2.9）
- ・「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえること」【8】（対全国比-1.6）

▼「書くこと」

- ・「文の中で適切に接続詞を用いること」【9（1）①・②】
（対全国比①-1.9 ②-3.0）
- ・「一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くこと」【9（2）②】
（対全国比-1.7）
- ・「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くこと」【9（3）①・②】（対全国比①-2.2 ②+0.3）
- ・「与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くこと」【9（3）③】（対全国比-2.8）
- ・「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くこと」【10】（対全国比-0.2）

◆学習指導に当たって

聞くこと

- ・ 普段の授業を自然な英語使用場面に近づけていく。
- ・ 生徒自身が分からないこと、曖昧なことをそのままにせず、聞き返す力を付ける。
- ・ 聞くだけにとどめずに、把握した内容について適切に応じることができるようにする。
- ・ 日頃から生徒と英語でのやり取りをする中で、実際に聞いて応じる活動を積み重ね、体験的に身に付けさせる。

読むこと

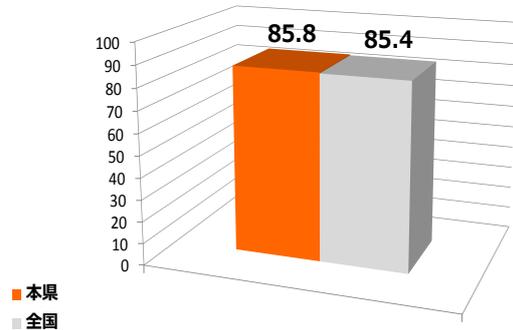
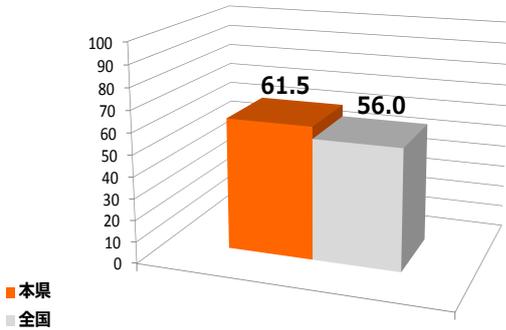
- ・ 日常的な話題や社会的な話題に関する説明などを読んで、最も大切な部分を読み取ることができるようにする。
- ・ 読むだけにとどめずに、読んだ内容について、自分の考えを整理して述べることができるようにする。

書くこと

- ・ 文の中で適切に接続詞を用いることができるようにする。
- ・ 場面や状況から文の形式や動詞の形（時制）を適切に判断し、正確に書くことができるようにする。
- ・ 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができるようにする。
- ・ 目的、場面、状況のある言語活動において、様々な個別の知識を活用させて文を書かせることを授業の中に位置付ける。

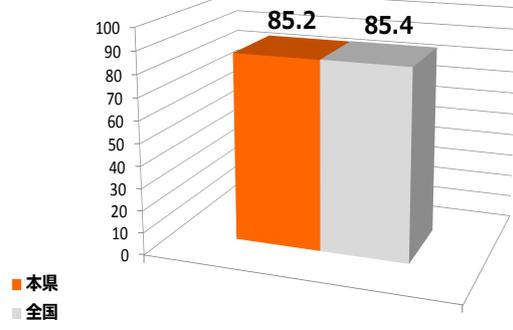
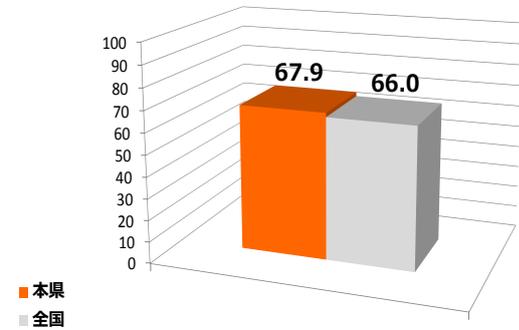
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合（％）】
 【(54) 英語の勉強が好きか】 【(55) 英語の勉強は大切か】



【(56) 英語の授業はよく分かるか】

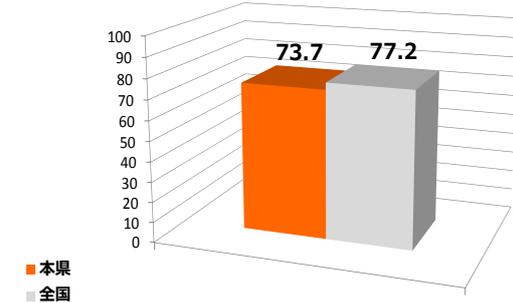
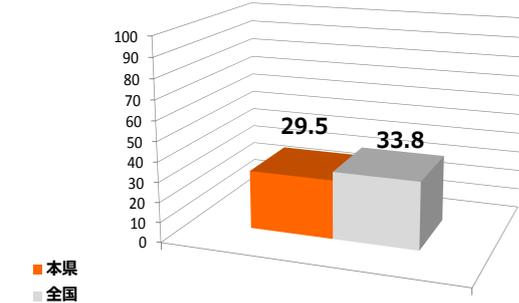
【(57) 英語の授業で学習したことは、将来役に立つと思うか】



□生徒の英語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等は概ね良好な状況にあり、英語の勉強が好きだと思う生徒は全国平均を上回っている。
 □約8割の生徒が、英語の授業で学習したことは、将来役に立つと考えている。

【(58) 英語を授業以外で使う】

【(63) まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた】

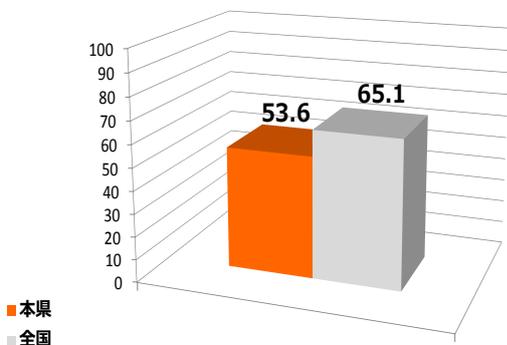


▼本県の生徒は、学校以外で日常的に英語を使う機会が全国と比べて少ない状況にある。
 ▼本県の生徒は、英語の授業でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動の経験が全国と比べて少ない状況にある。

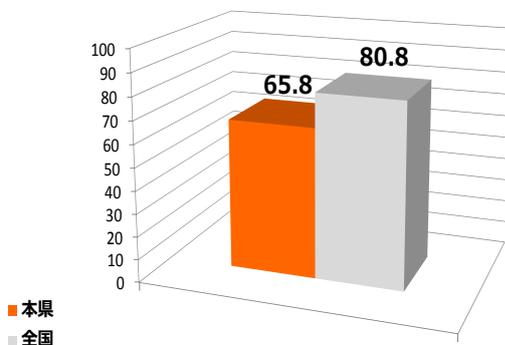
6 学校質問紙調査の結果から見える英語の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（％）】

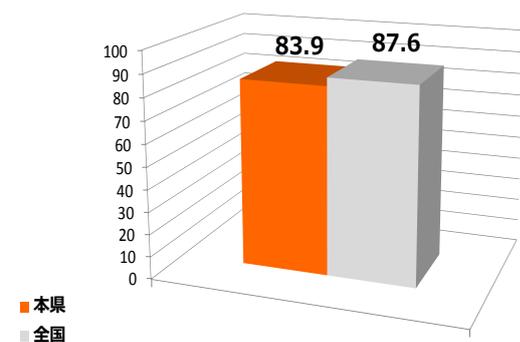
【（５４） 原稿などの準備をすることなく、自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を行った】



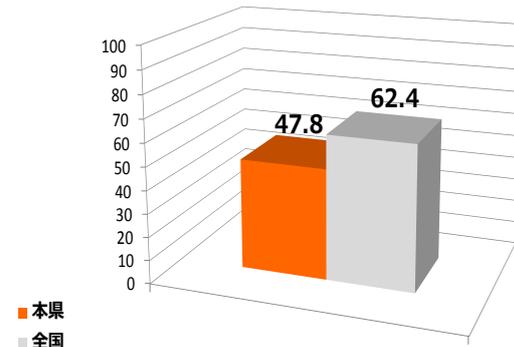
【（５５） 英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行った】



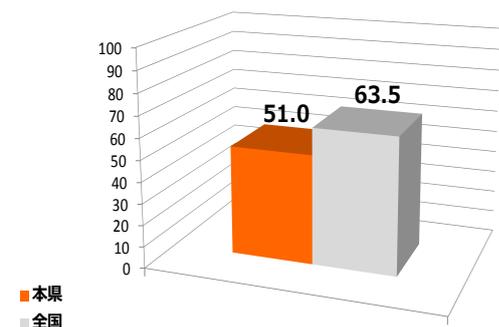
【（５６） 自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を行った】



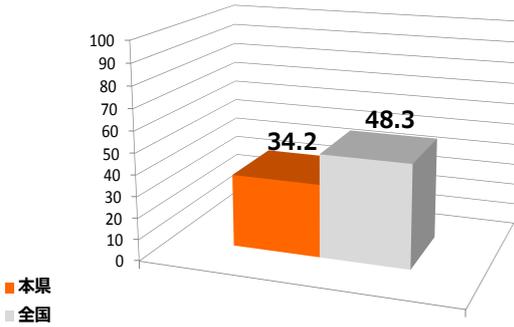
【（５７） 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行った】



【（５８） 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語でまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行った】



【（６０） 英語教育について、小学校と連携した】



- ▼ 生徒の意識に比べ、英語担当教員の指導に対する取組の意識は全国より低い傾向にある。
- ▼ 特に、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり、自分の考えを英語で書いたりする言語活動が全国と比べ、十分行われていない状況が見られる。
- ▼ 英語教育について、小学校と連携した学校の割合が3割程度であった。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について（平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書より）

聞くこと

◆ 聞いて把握した内容について、適切に応じる指導の充実

話し手からの質問や指示、依頼、提案などを聞いて、その内容や意図を正しく理解し、適切な応答をする活動を繰り返し行っていくことが必要である。依頼や提案などの話し手からの働きかけに対する反応の仕方は目的・場面・状況によって様々である。設定を工夫しながら活動を行わせ、どのような応答があり得るか考えさせることが大切である。日頃から、単に聞いた内容を理解することだけにとどめず、しっかりと聞く目的をもった指導を心がけたい。

読むこと

◆ まとまりのある文章を読んで大切な部分を読み取る指導の充実

社会的な話題に関する説明文などの大切な部分を捉えさせるには、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断する力を身に付けさせる必要がある。文章全体のおおまかな内容を捉えさせた上で、各段落に書かれた情報を比較検討して、最も伝えたい内容が書かれた英文を選ばせ、それについて意見交換させるなどの活動を工夫することが大切である。

◆ 読んで把握した内容について、自分の考えなどを話したり書いたりするために行う「読むこと」の指導の充実

英文の意味を理解するだけでなく、内容に対する賛否や感想、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、話の内容や書き手の意見や意向を主体的に捉えて適切に応じる活動を行っていくことが必要である。教科書に書かれている内容を読み取るだけにとどめず、話の内容や書き手の意見、それらの伝え方などを批判的に捉えるような読み方を育て、領域間の統合的な言語活動に結び付けていくことが大切である。

書くこと

◆ 考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く指導の充実

まとまりのある文章を書くためには、文と文の順序や相互の関連にも注意をはらい、全体として一貫性のある文章を書くことができるようにする必要がある。そのためには、事実やテーマから想起される自分の考えや気持ちなどを整理したメモなどを基にして書き始めることに慣れさせるとともに、教科書の本文を使って文章の構成の特徴（トピックセンテンスー支持文ー結論文）を意識させた上で、接続詞や副詞、代名詞などを用いる「言い換えの手法」等を指導していくことが大切である。

話すこと

◆ 関心のある事柄を即興で伝え合う指導の充実

即興で伝え合うためには、まず、話しやすくするために生徒が関心のある事柄を取り上げるなど、トピック設定の工夫が必要である。また、話すための原稿を事前に用意して、その内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく、不適切な間を置かずに関心と事実や意見、気持ちなどを伝え合う力を身に付けさせる必要がある。そのためには、互いに分からない点を尋ねたり確かめたりして対話を継続・発展させることを十分に意識して指導していくことが大切である。

知識及び技能

◆ 言語材料の確実な定着

言語材料の定着を図るためには、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うことが最も重要である。一方で、そのような活動を行うに当たり、それを支える言語材料については、それを支える言語材料についての理解や練習も十分に行っていく必要がある。発音やイントネーションなどの音声に関すること、語句や文の構造、文法事項

などに関する指導をなおざりにすることなく、「言語活動」と「理解や練習のための指導」の両者のバランス及び実施順序を工夫した実践を行うことが大切である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

話すこと

- ◆ 原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動の充実を図ることが大切である。
- ◆ 英語によるスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を計画的に設定し、生徒が実際のコミュニケーション場面において既習の言語材料を活用する機会の充実を図ることが大切である。

技能統合型の授業づくり

- ◆ 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする統合的な言語活動の充実を図ることが大切である。
- ◆ 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする統合的な言語活動の充実を図ることが大切である。

英語教育に係る小中連携

- ◆ 中学校区内の小学校と英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合う機会を定期的に設定することが大切である。
- ◆ 県版CAN-DOリストの形での学習到達目標(小・中学校)を活用し、7年間に渡る小学校と中学校における英語教育を通して児童生徒に付けさせたい力を明確に設定・共有し、指導に当たることが大切である。

<平成30年度県学習状況調査を踏まえて（英語）>

平成30年度学習状況調査実施報告書において、本県の中学生は「読むこと」と「書くこと」に課題があると分析した。

「読むこと」については、まとまった量の英文を読んだり、文章の構造を意識して英文を読んだりする経験が不足しており、今後の指導に当たっては、各校の「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を生徒と確実に共有しながら、教科書を活用して、日常的又は社会的な話題について必要な情報を読み取ったり、短い文章の概要や要点を捉えたりできるようにすることが大切である。

そのために、語と語のつながりを意識して読み取らせたり、大意を理解するskimmingや特定の情報を求めて英文を読むscanningに取り組みせたり、読む分量を増やし、パラグラフという概念を理解させた上で、概要や要点を捉えさせたりする指導を行うことが大切であるとした。

「書くこと」については、まとまった英文を書いたり、書いた英文を見直して、間違いの原因を知る機会が不足しており、今後の指導に当たっては、「読むこと」と同様に各校の「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を生徒と確実に共有しながら、関心のある事柄、日常的又は社会的な話題について、外国語のコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにすることが大切である。そして、間違いを恐れずに書かせる指導を積み重ねることが今後必要である。

【平成30年度学習状況調査実施報告書より】

今年度初めて実施された英語調査においても「読むこと」と「書くこと」で課題が見られたので、技能（領域）を統合した言語活動を設定し、聞いたり読んだりした内容について自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉えて、自分の考えや気持ち等を書くことができるよう指導することが非常に重要である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・平成30年度学習状況調査実施結果報告書
- ・平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書
- ・平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

V 質問紙調査

質問紙調査の結果については、以下の視点で分析を行った。

- ・良好な状態を把握するために、
 - 全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回ったか。
 - 望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）か。
- ・課題となっている状況を把握するために、
 - ▼全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回ったか。
 - ▼望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）か。

1 生徒質問紙の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した生徒は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 基本的な生活習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている生徒の割合は、前年度と比べ、増加傾向にあることがうかがえる。

②今後の対策・指導

- ◆ 朝食の摂取、規則正しい起床、就寝等、概ね良好な状況であるため、引き続き、学級懇談の場等において、課題を話し合ったり、家庭でのルールづくりを促したりするなど、保護者と連携していくことが必要である。

(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
7 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれているか(★) 【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	88.9	+4.3	+8.8
8 将来の夢や目標を持っているか 【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	76.0	+5.5	-1.7

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると考えている生徒の割合は、全国平均を上回るとともに、前年度と比べ、増加している。
- 将来の夢や目標を持っていると考えている生徒は、全国平均と比べ、上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
9 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるか（★） 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計 15 いじめはどんな理由があってもいけないことか（★） 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	95.2	+1.3	+0.2
13 学校の規則を守っているか（★） 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	96.4	+0.2	+0.9
16 人の役に立つ人間になりたいか（★） 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	95.5	+1.2	-0.2

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると考えている生徒の割合は、極めて高い。
- 学校の規則を守っていると考えている生徒の割合は、極めて高い。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと考えている生徒の割合は、極めて高い。
- 人の役に立つ人間になりたいと考えている生徒の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
5 自分にはよいところがあるか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	74.9	+0.8	-5.1

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 自分にはよいところがあると考えている生徒の割合は全国平均と同程度であるが、前年度と比べ、低い結果となった。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 生徒は、概ね自己肯定感が高く、将来の夢や目標をもっている傾向にある。また、学校の規則を守ること、いじめはいけない行為であると認識していること、人の役に立つ人間になりたいと考えていること、更には、物事を最後までやり遂げる責任感においても高い状況にある。今後とも、あらゆる教育活動において、生徒指導の機能を生かした指導の充実を図るとともに、道徳教育や体験活動等を通じて、豊かな人間性を育む教育を重視することが大切である。

(3) 学習習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
17 家で自分で計画を立てて勉強をしているか 【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	51.0	+0.6	-5.0
18 学校の授業時間以外に、普段（月から金曜日）、 1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか （学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に 教わっている時間も含む）【「2時間以上」の合計】	23.0	-12.5	-2.5

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合は全国平均と同程度であるが、前年度と比べ、低い結果となった。

▼ 学校の授業時間以外に、平日、1日当たり2時間以上、勉強をしている割合は全国と比べ、大きく下回っている。

※3時間以上(4.2%) 2～3時間(18.8%) 1～2時間(41.5%)
30分～1時間(23.8%) 30分未満(8.7%) 全くしない(2.9%)

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
19 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、 1日当たりどれくらいの時間、読書をするか（教 科書や参考書、漫画や雑誌は除く） 【「2時間以上」「1時間以上、2時間より少ない」の合計】	14.5	+2.1	-2.0
20 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教 科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、 借りたりするために、学校図書館・学校図書室や 地域の図書館にどれくらい行くか 【「だいたい週に4回以上行く」「週に1～3回程度行く」の合計】	5.4	-2.9	+0.6
22 新聞を読んでいますか 【「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」の合計】	14.8	+2.1	-0.8

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 平日に1時間以上読書をしている割合は全国平均と同程度であるが、2割に満たない。

▼ 週に1回以上図書館を利用している割合は全国平均を下回っており、1割に満たない。

▼ 週に1回以上新聞を読んでいる割合は全国平均と同程度であるが、2割に満たない。

②今後の対策・指導

◆ 家庭学習の時間を確保するために、学級活動等の時間において、生徒に1日の生活の効果的な過ごし方を話し合わせる活動を定期的に行ったり、月単位、学期単位、年間単位等の長い期間での学習計画を立てる活動を行ったり、生徒同士が家庭学習時間の確保や家庭学習の方法を話し合ったりするなどの活動を取り入れ、生徒自身が見通しをもって、家庭学習に取り組めるよう指導する。

◆ 家庭学習習慣の確立には、家庭との連携が不可欠であることから、学級懇談会や学級通信等を通じて、学級活動等で生徒自身が考えた学習計画を共有したり、県教育委員会作成のリーフレット等を活用して、家庭学習習慣の確立に向けて協力を呼びかけたりしていくことが必要である。

◆ 読書については、日常生活において読書に親しむ習慣を身に付けるよう指導したり、学校図書館を計画的に利用するよう促したりする必要がある。また、新聞などを活用して得た情報を比較したり、論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読んだりすることが大切である。

(4) 地域や社会に関わる活動の実施状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
24 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	44.7	+5.3	-0.3
26 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	66.4	+7.1	新規

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える生徒の割合は、全国平均と比べ、上回っている。
- 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと考える生徒の割合は、全国平均と比べ、大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問:なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問:なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
23 今住んでいる地域の行事に参加しているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	47.2	-3.4	+3.6

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 今住んでいる地域の行事に参加していると考えている生徒の割合は、全国を下回っており、5割に満たないものの、前年度を上回っている。また、平成29年度学習状況調査において実施した質問紙調査では、同様の質問に対して、67.7%の生徒が地域の行事に参加していると回答していた。

②今後の対策・指導

- ◆ 地域や社会に対する興味・関心をもつことは生徒の視野を広げ、自己の将来を具体的に描くことや学習に対する意欲付けにつながる効果も期待できることから、生徒が地域の行事や社会貢献活動等に自ら参加するよう促したり、参加できる環境を学校が積極的に整えたりすることが大切である。
- ◆ 教科等の授業の際、地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行うことで、学習した内容を実生活で生かせる実感をもたせる。また、学習内容に関連する記事を取り上げたり、短学活で新聞記事等を紹介し、その出来事について、生徒自身の考えをもたせたりする活動等を継続的に取り入れていく必要がある。
- ◆ 総合的な学習の時間において、地域の方に関わる場を設定したり、地域の課題解決を検討したりするような学習活動を取り入れ、地域の一員として自覚や参画する意識を育てるよう指導することが大切である。

(5) 部活動に関する状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
27 学校の部活動に参加しているか(★) 【「運動部だけに参加している」「文化部だけに参加している」「運動部と文化部の両方に参加している」の合計】	96.6	+9.1	-0.4
28 普段(月曜日から金曜日)、1日どれくらいの時間、部活動をするか 【「3時間以上」「2~3時間」の合計】	67.4	+14.4	-2.0

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 運動部及び文化部に参加している生徒の割合は、全国平均と比べ大きく上回っている。
- 平日、2時間以上部活動をしている生徒の割合は、全国と比べ大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 「運動部活動の指針」、「青森県文化部活動の指針」に沿って、適切な運営のための体制整備や休養日の設定等を行う必要がある。

(6) ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

	質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
30	1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか 【ほぼ毎日】【週1回以上】の合計	31.0	+0.4	新規

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用した生徒の割合は、全国と同程度である。

②今後の対策・指導

- ◆ 各教科等の指導でICTを活用することは、子供たちの学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業や「主体的・対話的で深い学び」の実現や、個に応じた指導の充実に資するものである。
- ◆ ICT機器を活用した教育の普及啓発及びICTを活用した授業に取り組む必要がある。

(7) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
34 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	66.7	+5.2	-3.4
35 あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	77.7	+6.1	新規
36 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	72.8	+7.2	新規
39 1、2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	81.6	+5.0	新規

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると考えている生徒の割合は、全国平均と比べ、上回っている。
- 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると考えている生徒の割合は、全国平均と比べ、大きく上回っている。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると考えている生徒の割合は、全国平均と比べ、大きく上回っている。
- 1、2年生のときに受けた道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと考える生徒の割合は、全国平均と比べ、上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度) 質問:なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問:なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満) 質問:なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 今後は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、本県児童生徒の実態を踏まえ、授業改善を進める必要がある。
- ◆ 総合的な学習の時間においては、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する必要がある。
- ◆ 道徳においては、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる必要がある。

2 学校質問紙の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した学校の生徒は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
11 前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか（★） 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	98.7	+0.1	±0.0
13 前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底したか（★） 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	96.1	-2.0	-2.2
14 前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行ったか（★） 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	98.0	-0.6	-1.4

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした学校の割合は、極めて高い。
- 前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底した学校の割合は、極めて高い。
- 前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行った学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 学習規律については、極めて良好な状況であり、指導が行き届いている。今後も引き続き、生徒指導の機能を生かし、指導の充実を図っていくことが望まれる。
- ◆ 学級全員で挑戦する課題を与えたり、課題解決のための学習の機会を設ける等への取組は、前年度に比べ良好な状況となっている。引き続き、課題解決のための指導の充実を図っていくことが望まれる。

(2) カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
20 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っているか（★） 【よく行った】「どちらかといえば、行っている」の合計	92.9	-0.8	+11.4

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合は、前年度と比べ、大きく増加している。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
17 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか（★） 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	98.0	+4.6	+0.5
19 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいるか（★） 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	96.1	+1.0	+5.1
21 学校として業務改善に取り組んでいるか（★） 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	98.1	+0.3	+1.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立した学校の割合は、極めて高い。
- 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる学校の割合は、極めて高い。
- 学校として業務改善に取り組んでいる学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
22 部活動のあり方について、保護者や地域と連携して見直しを進めているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	85.8	-5.7	新規

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 部活動のあり方について、保護者や地域と連携して見直しを進めている学校の割合は、全国と比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 前年度に比べ、教育課程の適切な編成等、カリキュラムマネジメントの充実が図られ、大きく改善している。今後も次のような視点をもって学習の効果が最大限に図られるようカリキュラムマネジメントに取り組んでいく必要がある。
 - ・各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していく。
 - ・教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づいて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。
 - ・教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

(3) 教職員の資質能力の向上

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
24 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っているか(★) 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	89.1	-2.3	+13.6
25 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っているか(★)【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	98.0	+1.6	+8.9
26 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしているか(★) 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	100.0	+5.1	+1.3
27 教員は、校外の教科教育に関する研究会に定期的・継続的に参加しているか(★) 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	94.9	+10.4	+3.3
28 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させているか(★) 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	98.1	+8.2	+0.1

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている学校の割合は、前年度と比べ、大きく増加している。
- 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている学校の割合は極めて高く、前年度と比べ、大きく増加している。
- 全ての中学校において教員が他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている。
- 教員は、校外の教科教育に関する研究会に定期的・継続的に参加している学校の割合は極めて高く、全国平均と比べ、大きく上回っている。
- 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている学校の割合は極めて高く、全国平均と比べ、大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
23 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っているか(★) 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	98.0	-0.6	-0.7
31 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか(★) 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	99.4	+2.5	+2.0

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている学校の割合は、極めて高い。
- 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 校長のリーダーシップのもと、校内研修が極めてよくなされており、教員も高い意欲をもって研修に励んでいる。校内研修は、各教員の授業改善や指導力の向上のために重要な基盤であることから、より専門的な外部講師を招聘するなど、引き続き、研修体制の充実を図っていくことが大切である。

- ◆ 校内研修は各教員の授業改善や指導力の向上のために重要な基盤であることから、互いの授業を見合い、研究協議する機会を確保する。なお、実施の際には、参観の視点を明らかにするなどして、教科の枠を越えた協議が可能となるような工夫をする必要がある。

(4) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
34 総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしているか(★) 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	89.1	±0.0	+10.0

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている学校の割合は、前年度と比べ、大きく増加している。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度) 質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
33 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	76.8	-5.8	-0.6
37 前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	85.8	-2.2	-6.4
38 前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	73.6	-4.3	-10.0

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると捉えている学校の割合は、全国平均と比べ、下回っている。
- ▼ 前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした学校の割合は、前年度と比べ、低くなっている。
- ▼ 前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた学校の割合は、前年度と比べ、かなり低くなっている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満) 質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 各教科や総合的な学習の時間の授業で、生徒の課題意識を生かした単元計画を構想したり、生徒が調べ、分析し、発表・表現するような探究的な学習活動を取り入れるなど、生徒が課題意識をもって主体的に学習活動に取り組めるよう工夫が必要である。
- ◆ 導入時に既習事項との関連から学習課題を立てさせたり、課題解決の見通しをもたせたりするなどの学習活動や、整理時に学習したことを自分の言葉でまとめたり、自らの取組がどうであったかを振り返ったりする学習活動は、学習意欲の向上や学習内容の定着のために大切であることから、継続的に指導する。

②今後の対策・指導

- ◆ 数学においては、知識・技能の習得等についてはよくなされているものの、発展的

な学習については、指導が十分になされていない状況にある。今後は、身に付けた知識・技能を基に、課題解決に向けて活用する力を高めるなど、発展的な学習を充実させる取組が必要である。

(5) ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
63 前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行ったか（★） 【「ほぼ毎日」「週1回以上」の合計】	73.5	-7.3	+8.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行った学校の割合は、前年度と比べると大きく増加したが、全国平均と比べ、大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ ICTを活用した授業については、全国平均を下回っているのので、各教科においては、ICTの積極的な導入を図り、情報活用能力を高めるとともに、主体的・対話的に深い学びによる授業改善が必要である。

(6) 小学校教育と中学校教育の連携

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
65 前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	63.2	-4.8	+16.1

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合は、前年度と比べ、大きく増加している。
- 上記の項目と教科の平均正答率には相関が見られない。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
67 平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有したか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	46.5	-13.5	+5.9

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有した学校の割合は、前年度と比べ、増加しているが、全国平均と比べ、

大きく下回っており、極めて低い。

②今後の対策・指導

- ◆ 近隣の小学校との連携は行事等の教育活動の合同実施にとどまらず、質的な充実をより一層図ることが必要である。具体的には、児童生徒の学力に関する課題や互いの学校の取組等を共有し、教育課程の編成に反映することが重要である。また、お互いの授業を見合った後、協議の場をもつような校内研修を実施し、学習指導の方法を共に検討・共有したり、児童生徒の家庭学習習慣の確立に向けた取組を検討・共有したりして、児童生徒の学びにより一層、継続性をもたせるような工夫をすること等が考えられる。

(7) 家庭や地域との連携

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
68 職場見学や職場体験活動を行っているか 【「行っている」の割合】	100.0	+1.0	+16.9

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 全ての中学校で職場見学や職場体験活動を行っている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
71 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などのような、保護者や地域の人との協働による活動を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	58.7	-8.8	+12.2

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などのような、保護者や地域の人との協働による活動を行った学校の割合は、前年度と比べ、大きく増加しているが、全国平均を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 地域の人材や博物館や科学館、図書館等の教育資源を生かすことは、開かれた学校づくりに寄与するだけでなく、生徒が地域に誇りをもったり、社会参画の意識を高めたりすることに大きく影響を与える。カリキュラムマネジメントにより、効果的な教育活動の体制を整備する必要がある。

(8) 家庭学習

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
74 前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしているか（教科共通）（★） 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	96.2	+3.9	+3.3
77 英語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（宿題）を与えたか（★） 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	96.8	+2.3	新規
78 英語の指導として、前年度までに、生徒が行った家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導を行ったか（★） 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	95.5	+0.8	新規

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしている学校の割合は、極めて高い。
- 英語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（宿題）を与えた学校の割合は、極めて高い。
- 英語の指導として、前年度までに、生徒が行った家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導を行った学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
75 国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（宿題）を与えたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	85.8	-3.9	-5.7

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（宿題）を与えた学校の割合は、前年度と比べ、かなり低くなっている

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 家庭学習の取り組ませ方について、校内で共通理解を図ったり、保護者に対して働きかけたりする取組は改善傾向である。引き続き、生徒、保護者への家庭学習に関するガイダンスを実施するなど、指導を継続していく必要がある。
- ◆ 家庭学習の課題については、教科書を活用し、予習、復習をよく行っている傾向があるが、文章を書かせたり、発展的な内容のものを課題として与えたりする取組については、課題が見られる。授業の題材に応じて、教科ごとに家庭学習の課題を調整するなど、生徒が無理なく取り組むことができたり、自分で学習する内容等を計画しながら進めたりできるような指導に今後とも学校・学年全体で組織的に取り組む必要がある。
- ◆ 授業のまとめの段階で復習だけでなく、授業の題材に応じて予習や発展的課題を提示するなどの具体的な指導を行う。
- ◆ 単元のまとめとして、単元で学習したことを文章や図表を使って、整理させる課題を与えたり、次の単元や授業につながる課題を提示し、辞書や資料を使って調べさせたりするような課題を与えたりする指導を、適切な場面を捉えて実施する。
- ◆ 長期休業中においては、授業で扱った内容や身近な題材をテーマにして自由研究に取り組ませることが必要である。その際、自由研究の手引きなどを活用し、長期休業前に指導するなど、改善が必要である。

(9) 全国学力・学習状況調査等の活用

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
80 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行ったか（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む） 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	55.5	-32.0	-5.1

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）を行った学校の割合は、全国平均と比べ、大きく下回っており、前年度と比べ、かなり低くなっている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 学校等においては、多面的な分析を行い、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら、教育及び教育施策の改善に取り組むことが必要である。

また、調査結果を踏まえ、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等に努めるとともに、自らの教育指導等の改善に向けて取り組むことが必要である。